低学年の説明的文章における読みの力を高める教師の支援に関する研究
－「想像」を広げて読むことの支援に視点を当てて－

広島市立段原小学校教諭　　広　本　典　子

Ⅰ　研究主題設定の理由

これまで，説明的文章の学習では，音読を中心として読み取ったことをワークシートにまとめ，単元の発展として図鑑作りやクイズ大会を行うことが多かった。

その結果，音読への意欲も高まり，説明されていることの大体を読み取ることはできるようになってきた。しかし，叙述に即して豊かに読む，説明されていることの不思議さを感じ取りながら読むなどの読みには至っていなかった。それは，語句と語句，語句と文を関係付けながら読む学習に深まりが足りなかったことに起因していると考える。

そこで，本研究では，説明的文章においても語句と語句，語句と文を関係付けて「想像」を広げて読むことでができるような支援を講じ，このような読みを活性化すれば，読みの力を高めることができるのではないかと考え，その支援の在り方を探ることにした。

Ⅱ　研究の方法

「想像」や低学年の読みの力の基礎的研究をもとに，説明的文章の読み取りにおいて，「想像」を広げて読む支援を位置付けた授業実践を行い，「想像」を広げて読むことの有効性やその支援の在り方について分析・考察を行う。

Ⅲ　研究の内容

１　研究主題に関する基礎的研究

(1) 低学年の読みの力

低学年の読むことの能力を育てるための指導事項として，『小学校学習指導要領』には，次の４項目が示されている。

ア　易しい読み物に興味をもち，読むこと。
イ　時間的な順序，事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと。
ウ　場面の様子などについて，想像を広げながら読むこと。
エ　語や文としてのまとまりや内容，響きなどについて考えながら声に出して読むこと。

読みの力は，イが基礎となる。そのため，説明的文章では，イに焦点を当てることが多かったが，ウにも焦点を当てることで，より豊かな読みへ高めることができると考える。語句と語句，語句と文を関係付けて，それぞれの場面を豊かに思い描くことは，読む楽しさやおもしろさを実感し読書意欲や表現意欲へつながるものと考える。

(2) 「想像」の定義

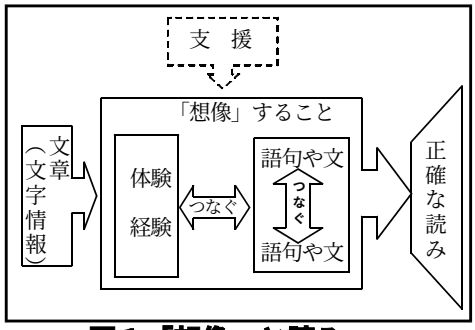


図１「想像」と読み

想像とは，入ってきた情報を体験や経験で得た知を使ってつないでいき，現前にない対象を思い浮かべる活動である。読んで理解することは，読み手が語彙知識や経験から得た知を使って推論したり，語と語を関係付けたりすることで文と文の間を埋め，抽象的に書かれていることを具体的にはこのような様子だったのではないかと想像し，文章に書かれた

情報に関して一つのモデルを心のなかに作り上げていくことである。このことを「想像」と表記する。

図１に示す,「つなぐ」部分を活性化させることで文字情報を正確に豊かに読み取ることができると考える。従って,「想像」を広げる支援は，この「つなぐ」部分に向けての支援が重要となってくる。

(3) 低学年の説明的文章における「想像」を広げて読むことの利点とその支援

ア　低学年における「想像」を広げて読むことの利点

低学年は，登場人物に同化したり,「想像」したりすることを好む傾向にある。また，そのような発達段階を踏まえて低学年の説明的文章では，物語風に書かれたものが多い。このような教材では,「想像」を広げて読むことで，次に示す利点が期待できる。

①　書かれている事柄の様子をより鮮明に描くことができる。
②　実感を伴った読みとなり，感動や知的好奇心を呼び起こす。
③　低学年では，論理的な読みより,「想像」を広げる読みの方が容易で楽しめる。
④　「想像」を確かめるための視聴覚資料や図書資料が入手しやすい。
⑤　「想像」を助ける具体物等が文学的文章の場合より身近に入手しやすい場合が多い。

イ　「想像」を広げて読むことへの支援

読んで理解することは，図２に示した文字情報を自分の経験とつないで理解する段階から始まる。そのため，ここでの読みは，曖昧であったり，独り善がりな読みであったりすることが多い。このような読みを，事実を正確に読み取り，語句や文から「想像」を広げ,場面をとらえた豊かな読みへと高めることが求められる。そのため支援として次の３点が必要である。

○事柄の順序をとらえ，内容の大体をつかむことを促す支援
（事実の読み取り）
○語句と語句，語句と文をつなぎ，言葉のまとまりを具体的に「想像」することを促す支援
（言葉のまとまりのとらえ）
○文と文，場面と場面を関係付けて，場面の様子を具体的に「想像」することを促す支援
（内容のまとまりのとらえ）

表１に示す支援の方法は，上記の支援を具体化したものであり，ア～オは，その機能を表している。

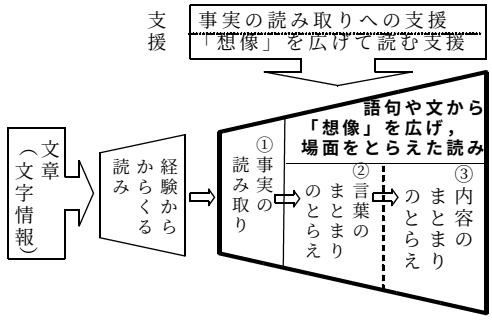


図２　低学年の読みの段階

表１　「想像」を広げて読むことの支援と方法

読みの段階		支援の目的	支援の方法	
①事実の読み取り		事柄の順序をとらえ，内容の大体をつかむことを促す	**オ** ワークシート **オ** 板書の図式化 **オ** 構成表（説明の家）	**エ** サイドライン
語句や文から「想像」を広げ、場面をとらえた読み	②言葉のまとまりのとらえ	語句と語句，語句と文をつなぎ，言葉のまとまりを具体的に「想像」することを促す	**ｱｲｴ** 挿し絵・写真 **ア** 具体物 **イ** 着目語句の提示・比較	**アイ** 動作化
	③内容のまとまりのとらえ	文と文，場面と場面を関係付けて，場面の様子を具体的に「想像」することを促す	**ウ** 板書の図式化 **イ** 揺さぶり発問 **ウ** 題名の再提示	**イウ** 絵図作成

＜支援の方法の機能＞
ア「想像」の補助　**イ**「想像」を広げる手掛かり
ウ「想像」したことの関係付け　**エ**「想像」の確認　**オ**事実の整理

２　学習指導計画の作成

広島市立Ａ小学校第２学年Ｂ組 33 名を対象に単元「どうぶつのひみつをさぐろう『ビーバーの大工事』」を取り上げ,表２のように学習指導計画を作成した。

なお，学習指導計画作成に当たっては，文章への抵抗を和らげ，子どもの学びの意識に沿った学習が展開できるように次の点に留意することとした。

○自分の経験と照らし合わせて感じ取ること ➡ その根拠となる語句や文へかかわり，事実を読み取っていくこと ➡「想像」を広げて読むことで新たなビーバーのすごさを味わっていく。このステップを１時間の学習過程に設定する。
○擬態語や擬音語などの様子を表す言葉や数量を表す言葉を「想像」を広げる手掛かりとする。
○情意面の支援として，知的好奇心を喚起するような導入や課題提示の工夫を行う。

表２　学　習　指　導　計　画（全21時間中９時間）

1　単元　どうぶつのひみつをさぐろう　「ビーバーの大工事」

2　教材のねらい

○ビーバーの秘密について関心をもって調べ，進んで学習に取り組む。　【国語への関心・意欲・態度】

○叙述に即して「想像」を広げながらビーバーの巣作りの様子や体の特徴，知恵を読み取る。【読むこと】

時	※主な学習内容・学習活動	①事実の読み取り	語句や文から「想像」を広げ，場面をとらえた読み ②言葉のまとまりのとらえ	③内容のまとまりのとらえ
※内容の大体をつかむ。順序の大体をつかむ。		○仕事の順序，仕事内容の大体 **オ 挿し絵** **オ 構成表（説明の家）**		
1.2時 **全体**	・全文を読み，初発の感想を交流する。 ・挿し絵をもとに大工事の順序を整理する。			
※ダムをつくる順序や様子を想像しながら読む。 ※仕事をするのに都合のよいビーバーの体の特徴を読み取る。		○鋭い歯で木をかじって倒す ○切り倒した木を短くかみ切り運ぶ	○かじる様子のすごさ ○大きな木が倒れる様子やすごさ ○森での運び方 ○川での運び方	○すごい速さで大きな木をあちらこちらで切り倒すすごさ ○工夫して運んでいる知恵や都合のよい体の特徴に感心
3・4時（1・2場面）	・学習のめあてをつかむ。 ・予想を立て，音読する。 ・すごいと思ったことを交流する。 ・すごいと思ったことの根拠となるところや様子が分かるところにラインを引きながら読む。 ・「想像」を広げる交流や話し合いをする。 ・ネーミングで内容をまとめる。	**オ ワークシート** **オ 板書の図式化** **エ サイドライン**	**ア 挿し絵・写真** **イ 着目語句の提示・比較** **ア 動作化**	**イ 揺さぶり発問**
5時（3場面前半）	・学習のめあてをつかむ。 ・前半部分を読み，ダムをつくる仕事の順序や方法をつかむ。 ①音読　②感想交流　③交流 ・絵図を作りながら仕事の様子を想像する。 ①家族会議（何のために，どんなふうに，発表方法） ②ダムをつくる。（説明→作業→意見交流）	○材料，順序，体の特徴 **エ サイドライン**	○ダムをつくる方法 ○協力の様子 **イウ 絵図作成**	○材料の役割を考え工夫しているビーバーの賢さ
6時（3場面後半）	・学習のめあてをつかむ。 ・後半部分を読み，ダムが完成するまでの様子をつかむ。 ①音読　②感想交流　③家族会議（どのようにして完成するのか） ・家族会議で話し合ったことを参考に全体で話し合う。 ・ネーミングで内容をまとめる。	○ダムの高さ，長さ ○川をせき止める **オ ワークシート**	○時間かけて完成していく様子 **イ 着目語句の提示・比較**	○仕事を繰り返して完成させていくすごさ **ウ 板書の図式化** **イ 揺さぶり発問**
※巣を作る順序や工夫を読み取る。 ※安全な巣を作るビーバーの知恵を読み取る。		○巣の作り方や位置 ○安全な巣の工夫	○ダムの役割	○ダムの役割を利用して安全な巣を作る知恵のすごさ
7時（4場面）	・学習のめあてをつかむ。 ・巣の作り方を読み取る。 ①音読　②ライン　③交流 ・ダムをつくるわけを話し合う。 ①ワークシートに記入　②ペア対話　③全体で話し合う。 ・ネーミングで内容をまとめる。	**オ 板書の図式化** **エ サイドライン**	**ア 挿し絵**	**イ 揺さぶり発問**
※学習のまとめをする。		○安全な巣を作るための仕事内容からみた構成の整理 **オ 構成表（説明の家）** **エ ＶＴＲ**		○安全な巣を作るための知恵と大工事をやり遂げるすごさ **ウ 題名の再提示**
8・9時（まとめ）	・学習のめあてをつかむ。 ・説明の家（構成表）を完成する。 ①音読　②各部屋の名前を話し合う。 ・中川さんが伝えたかったことを交流し，手紙を書く。 ・ビデオを教科書と比べながら視聴し，感想を交流する。			

ア「想像」の補助　**イ**「想像」を広げる手掛かり　**ウ**「想像」したことの関係付け　**エ**「想像」の確認　**オ**　事実の整理　　○は分析の視点　太字は支援

3　授業実践と結果の分析・考察

(1) 分析の視点と方法

○　初発の感想での子どもの読み取り結果と担任からの聞き取りを参考にして現時点での読みの力を分析する。それをもとに，下位群，中位群の中から２名（Ａ児，Ｂ児）を抽出し，「想像」の広がりを時系列で分析する。「想像」の広がりは，語句や文がどの範囲までつながり，どのように読み取っているかが要素となってくるため，次の視点で分析する。

- **事実の読み取り→事柄の順序をとらえ内容の大体を読み取っている。**
- **言葉のまとまりのとらえ→語句と語句，語句と文をつなぎ言葉のまとまりを具体的に「想像」している。**
- **内容のまとまりのとらえ→文と文，場面と場面を関係付けて，場面の様子を具体的に「想像」している。**

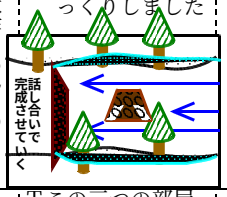
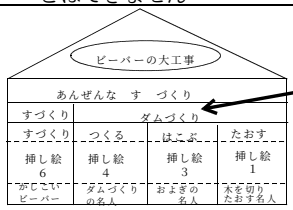
○　抽出児の読みの変化を分析し，支援との関係性を考察する。また，支援が顕著であった場面を取り上げ，児童全体の読みの変化と支援の関係性を探り，支援の機能の仕方を考察する。

分析資料は，児童が書いた内容（ワークシート・感想・手紙，教科書へのサイドライン），発言，つぶやき，指導者の児童観察記録とする。

(2)　抽出児の読みの変化と支援

表３，４は，抽出児の活動の実際を記入し，読みの変化と支援との関係性を分析したものである。横方向では，１時間内の読みの変化を見取り，縦方向は，単元を通しての読みの変化を見取ることができる。Ａ児は，音読にもかなりの練習を要し，事実を読み取ることにも支援が必要である。Ｂ児は，一人読みで事実を読み取ることはできる。両者とも初発の感想では，「想像」の広がりは見られていない。

表３　Ａ児の読みの変化 ア「想像」の補助 イ「想像」を広げる手掛かり ウ「想像」したことの関係付け エ「想像」の確認 オ事実の整理

	①事実の読み取り（順序，内容の大体）			語句や文から「想像」を広げ，場面をとらえた読み		有効性が顕著に見られた支援 ①事実 ②言葉 ③内容
	ワークシートに書いていること	発　言	つぶやき反応	②言葉のまとまりのとらえ	③内容のまとまりのとらえ	
3時 **1場面**	1 かじる，たおす 2 ビーバーが木のみきをかじっています 3 ガリガリ，ガリガリ 4 すごいはやさです 5 地ひびきをたててたおすのがすごい	Ｔ たちまちってどういうこと？ 6 すぐ Ｔ ビーバーはどういう仕事をしてた？ 7 かじる仕事	Ｔ かじったらどうなる？ 8 倒れる Ｔ 幹はどこ？ 9 正解に挙手	10 ビーバーが木をかじっているのがすごかった（ ワ まとめ） 写真		② **ア写真**
5・6時 **3場面 前半・後半**	11（せき止める）ながれないようにこどもで 12 小えだ，上から石 13 どろでしっかりかためる 14 ビーバーが夕方から夜中までしごとをしているのがすごい 15 ビーバーがダムをつくるなんてすごいよね 16 ビーバーがかぞくでしごとをしているなんてすごいよ	17 ビーバーが水の中に入ったとき 5分間でも 15分間でも作ったのがびっくりしました		18 ビーバーが水の中にいるとき 15 分間もかかるのがすごいです（ ワ まとめ）	19 どろで石とか木をかためるのがいいと思いました（発言） 20 ビーバーが石とどろと木を石みたいにかためるのがすごい（ ワ まとめ） 絵図作成	②・③ **イ ウ 絵図作成**
	21 二メートル，長さ四百五十メートルもある大きなものもあった（感想）	**板書の図式化**	Ｔ ダムは一晩でできる？ 22 手を挙げている人を見て遅れて挙げる（できない方に）	23 木がなくなったら～（つぶやき）		
7時 **4場面**	24 ずうみのまん中にすを作ります。それは，まるで水の上にうかんだしまのようです 25 すはダムと同じように，木石とどろをつみ上げて作ります 26 すの入り口は，水の中にあり～入ることはできません（24~26 サイドライン） 27 ビーバーのようにおよぎの上手などうぶつでないと，けっしてすの中にはいることはできません	28 ビーバーのような泳ぎが上手な家動物でないと家に入れんのがびっくりしました  	29 ダムの位置の誤答に対して「違う」とつぶやく Ｔ どっちに湖ができるの？ 30 正解に挙手 Ｔ 巣とダムとどっちがほしい 31 巣に挙手	32 ダムがないと水とかがないし，てきとかがくる（ダムの理由） 33 ダムがなかったらねえ，こわれる（ペア対話） 34 友だちの説明を聞いて挿し絵を見ている（反応） 挿し絵	板書の図式化・挿し絵	① **オ板書の図式化** ② **ア挿し絵**
8時 **まとめ**	 	Ｔ この三つの部屋をまとめて，ういう部屋の名前にしたらいいと思います（発言） 35 ダムづくりだと思います（発言） 構成表（説明の家）	Ｔ この部屋はどんな仕事をしていた？（第１場面の部屋） 36 勢いよく手を挙げる Ｔ ダムはいるんだったの？ 37 巣の方に挙手	38 ビーバーが木のみきをかじっていえたのがすごくいえたらい 39 夕方から夜中までこどもで家ぞくでしごとをしてすごかったです 40 はやくかじれるのがてんさい（手紙）	41 ビーバーが木とかえだでダムとか家を作るなんてすごいですよ（手紙）	① **オ構成表（説明の家）**

初発の感想との比較
・～はやくかじっているのがふしぎ
・～家をたてたのがおもしろかったです。
・なんかビーバーが15分間かかったのがすごかったです

【Ａ児の考察】　上記網掛けは，最も支援の有効性が見られたところ　　ワ は，ワークシートの略

＜１場面７,10＞ ３，４の記述から，速さを具体的に「想像」していることが分かる。また，８の発言は，写真を提示すると同時に挙手したことから，写真提示に効果があったと思われる。しかし，かじり方や歯の特徴，倒れ方の事実の記入は見られず，場面の様子への広がりは見られない。倒すことについての資料がなかったこと，木の大きさが実感できなかったことが原因として考えられる。実際に木を見る，運ぶ等の体験を入れておけば，ここでの実感が以後の「想像」へも有効に働いたのではないかと推察する。本時のワークシートは，形式が簡素すぎてかえって難しそうだった。個への支援が必要だった。

＜１場面９＞９の反応から，幹の模型の提示で語句の意味を正確につかむことができたことがわかる。

＜３場面前半19,20＞ 12,13 の記述や発表をしているグループに対して自分の「想像」したことと比べて感想を述べていることから，ダムづくりの場面を具体的に「想像」していることが分かる。17は本時の最初に発言した内容で，初発の感想との変化はない。しかし，ダムの絵図作成後は具体的な仕事場面の「想像」に広がっている。絵図作成の際，材料の役割と工夫する点について，自分もビーバーの家族になり文章を拠り所にグループで話し合わせたこと（家族会議），実際に一人一人がダムをつくる活動をしたことが有効であったと考える。Ａ児は，家族会議では，席を自ら移動し，意欲的な態度を示していた。このことからもこの活動が学習意欲を促すものであったと考えられる。サイドラインやワークシート記入の作業は，第３時から隣を見るなど自信がなさそうであった。そこをすぐに見取り，支援を入れるべきだった。

＜３場面後半＞ダムの大きさは言えても(21)，22からは自信のなさが見られる。グループの話し合いでは，考えようとしているが(23)ダム完成にかかわる発言や記述がないことから，作業を繰り返しながら，かなりの時間をかけてつくっていく様子は「想像」できていないと思われる。「どのようにして450mのダムをつくったのか」「ダムは一晩でできるのだろうか」という話し合い場面では，発言は見られず，何となく聞いているといった様子だった。１場面で，丸太を持つ体験をしていれば，大変だから時間もかかるだろうという実感と「少しずつのびて」「やがて」という語句とを結び付けることができたのではないかと考える。

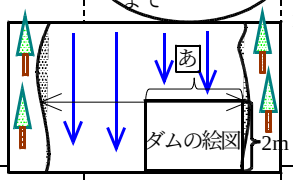
＜４場面32,33＞ 「ダムがないとてきがくる」「ダムがなかったらねえ，こわれる」という記述から，巣の工夫や位置関係の大体をつかんだ読み(24～27)からダムの役割へ「想像」を広げていることから場面の様子を具体的にとらえていることが分かる。３場面でダムづくりの工夫を考えながら活動したことが４場面にもつながっていると考えられる。しかし，安全な巣についての驚きを表現した記述がないことから，ダムと巣の関係のすごさを感じ取るところまでは至っていないと思われる。

＜まとめ35＞ 「ダム」という言葉は，１場面から３場面を合わせた部屋の名前であることから，場面を関係付けた発言であることが分かる。構成表（説明の家）の部屋割りが関係付けの助けとなったものと考える。

＜読みの変化と支援＞ Ａ児は，手紙に大工事への思いを自分の言葉で再構成して書いている(41)。初発の感想での「ふしぎ」「おもしろかった」「なんか」が最終段階では「なんて」に変わっていることから，言葉のまとまりや場面の様子を読み取ることができるようになってきているのが分かる。このように読みを変化させた顕著な支援として，絵図作成が挙げられる。絵図作成では，ダムづくりの材料を手にし，役割を考えながら貼り付けることで一層，「想像」を広げることができた。また，自信を持ちにくいＡ児にとっては，グループのみんなで文章を読み取るようにしたことが安心感となった。絵図を順に完成させていく過程で順序や材料のつながり，ビーバーたちの働く様子も思い浮かべやすくなったと考える。また，他のグループの発表を見る過程にも文章に立ち戻る場を設けたことは，自分が読み取ったことと比べることを促していた。

全般を通してＡ児には，写真や挿し絵の提示が有効だった。この提示により，文章への抵抗が和らぎ，読み進めていくうえでの補助となっていた。文章に抵抗のあるＡ児にとっては，ワークシートの記入が難しい様子であったため，第４時以降は，復習の要素を多くした。一人読みの支援として使えるようにワークシートを個に応じた視点で改良していく必要がある。

表４　Ｂ児の読みの変化 ア「想像」の補助 イ「想像」を広げる手掛かり ウ「想像」したことの関係付け エ「想像」の確認 オ事実の整理

	①事実の読み取り（順序，内容の大体）			語句や文から「想像」を広げ，場面をとらえた読み		有効性が顕著に見られた支援 ①事実 ②言葉 ③内容
	ワークシートに書いていること	発　言	つぶやき反応	②言葉のまとまりのとらえ	③内容のまとまりのとらえ	
3時 **1場面**	1 ガリガリ　ガリガリ 2 すごいはやさ 3 大工さんのつかうのみのよう 4 はでぐいぐいとかじっていく 5 木がドシーンと地ひびきを立ててたおれる 6 ドシーン，ドシーン ワークシートに分類	T ガリガリ以外にも早いことが分かる言葉 7 とびちる サイドライン	T かじったらどうなる？ 8 倒れる T 幹はどこ？ 9 正解に挙手	着目語句・写真	10 おもい木をかじるだけでたおすのはすごかったよ ガリガリとはやくかじるのがすごかった ドシーンとつぎつぎにいっぱい木をたおしたのがすごかった（ワまとめ）	① **エ サイドライン** **オ ワークシート** ② **ア写真** **イ着目語句提示**
5・6時 **3場面 前半・後半**	11 材料　木，石とどろ 誰が　家族の しっかりかためて（ライン） 12 木のとがった方をさしこんでながれないようにする 13 小えだ，上から石 14 どろでしっかりかためる			絵図作成 板書の図式化	15 木がばらばらにならないためこわれないようにしっかりかためる（発表内容） 16 どろや石や木で夕方から夜中までかぞくそうでつくるのはすごい（ワまとめ）	②・③ **イウ絵図作成**
	17 高さ２mでながさ 450 mもある大きなダムをつくれる なんてすごいよ（感想）	T 450 mってどこ 18 一方の川岸からもう一方の川岸まで 	19 少しずつのびるに同意	20 18の後黒板のどこが 450 mに相当するのかが分かって，**あっそう**とつぶやく 揺さぶり発問	T 一晩でできる？ 21 450 mもあるのを夕方から夜中までだったらできない。木を取ったりいろいろしてたら時間がかかる 22「やがては，何かやっとって感じ」という発言に付け足して普通で５分間長いときには 15 分間って書いてあるから，とちゅうで作る間に出るから時間がかかる（発言）	② **イ着目語句の比較** ③ **ウ板書の図式化** **イ揺さぶり発問**
7時 **4場面**	23・ダムができあがって，水がせきとめられると，その内がわにみずうみが ・水の上にうかんだ ・およぎの上手などうぶつでないとけっしてすの中に入ることはできません（ライン）	T 巣とダムどっちがほしい？ 24 巣	T 巣にどんな工夫があった？ 25 挙手 T どっちに湖ができるの？ 26 正解に挙手 27 入り口は水の中の意見に同じ	揺さぶり発問	T なぜダムを先につくるの 28 さきにすをつくったらテキにじゃまされるから 29 ダムをつくって，てきにおそわれないすをつくったのはほんとうにすごい（ワまとめ）	① **オ板書の図式化** ② **ア挿し絵** ③ **イ揺さぶり発問**
8時 **まとめ**		30 説明の家の名前を大工事にすることへの賛成意見を言う ビーバーの大工事がいい訳は，本の題から	31 各部屋の名前を考えて発表しようと挙手 初発の感想との比較 ・なぜ，ダムができるの ・なぜ木をつぎつぎならべて土や石でかためないとできないの	題名の再提示	32 人間がする工事は普通工事だけど動物がする工事だから大工事だと思う 33 ビーバーはこんなにすごいものをつくるんだってことを教えたかった（発言） 34 人間みたいに機械を使わずしぜんのいろいろなものを使ってダムやすを作ったりしてちえがすごくあるんだなあ（手紙）	② **ウ題名の再提示**

【Ｂ児の考察】　上記網掛けは，最も支援の有効性が見られたところ　　ワは，ワークシートの略

＜１場面10＞ワークシートにかじる様子や倒す様子を表す言葉を的確に選び分類していること，「重い木をかじるだけで」など自分の言葉で再構成していることから，木を切りたおす場面を具体的に「想像」していることが分かる。「かじる」「たおす」すごさが分かる語句に着目させ分類する作業やそれをもとにした話し合いが，漠然とした「想像」を具体化させ，さらに，両者を関係付けることに効果的であったと考える。

＜３場面前半15,16＞　「木がばらばらにならないため」「こわれないように」という表現から，作業の順序や材料の役割，作業の様子の場面を具体的に「想像」できていることが分かる。グループでの話し合い（家族会議）でも積極性がみられた。叙述や挿し絵からさらに「想像」を広げるために，材料の役割についての課題を出したことが知的好奇心を掻き立てたのではないかと考える。本時のサイドラインは，「材料や誰がつくっているかが分かるところに引こう」という指示だったためか，第３・４時ほどの意気込みは感じられなかった。

＜３場面後半20＞　事実の読み取り(18)から「想像」が広がった読みに変わった瞬間である。Ｂ児は，450mが表すところは，一方の川岸からもう一方の川岸であることは言葉では分かっていたが，川をせき止めている「想像」とは結び付いておらず，模造紙で作ったダムの一辺あ を 450 mだと思い込んでいたようだ。しかし，黒板全体を川に見立てた板書を示しながら，「ここは，まだ水が流れている？」と問い掛けたことで川をせき止める「想像」へ広がったものと考える。ここでの発見が，さらに，１回だけの作業ではダムは完成しないのだという読みに結び付いていった(21)。

　また，この発見以後，「すごい」（波線部分）で表していた気持ちが二重波線部分のように「ほんとうにすごい・こんなにすごいもの・ちえがすごく」などの表現に変わった(29,33,34)。これらの実感を伴った表現から「想像」を広げて読んでいることが推察できる。

＜３場面後半21＞　「木を取ったりいろいろしてたら」という言葉からは，１場面からの仕事の様子と結び付けていることが分かる。この話し合いの前段階で 450 mものダムをどのようにしてつくるのかについてグループや全体の話し合いの場を持ったことで，仕事を繰り返す様子が膨らんでいったものと考える。ここにも発見した 450 mが役立っている。成功体験が学習に意欲をもたらしているのを見取ることができる。

＜３場面後半22＞　言葉だけで考えているところに無理が感じられる。１場面の学習で木の重さを実感していたら，この理由以外にも大変さを主張していたのではないかと考える。しかし，「一晩でできるのか」「ダムが必要なのか」をテーマにした話し合いに意欲を見せていた。このことから揺さぶり発問がＢ児の思考を活性化させたことが推察できる。

＜まとめ32,33＞　題名の意図を考えることで教材文全体をとらえた読みができていることが分かる。

＜読みの変化と支援＞　第１時から「想像」を広げるための語句や文へ着目する支援で場面の様子を具体的に読み取っていた。さらに第８時では，筆者の考えに触れる読みとなったことがうかがえる(枠囲み部分)。Ｂ児は，着目語句に気付かせることで「想像」を広げることが比較的容易にできたが，特に顕著な効果が見られたのはダムの絵図作成，板書の図式化，揺さぶり発問であった。絵図作成は，読み返すことを促す活動であり，それにより正確に読むことや「想像」を広げることができるようになった。ここでの作業は実感のこもった「想像」へ広げることにも有効だった。

　Ｂ児にとっては，板書の図式化が位置関係を把握する補助となっていた。視覚に訴えることで思い込みを正確な読みに変えることができた。

　揺さぶり発問も自分の言葉で考えることを促していたことから，「想像」を広げて読むことに有効だったと考える。

(3) 児童全体の読みの変化と支援

抽出児の読みの変化と支援の関係を分析した結果，３場面前半の読みでは絵図作成がＡ児Ｂ児に共通して顕著な有効性が見られ，３場面後半の読みでは揺さぶり発問，板書の図式化で支援の有効性に差が見られた。図３は分析資料をもとに教師が総合的に判断した各場面のクラスの児童全体の読み取りの変化を表したものである。このグラフからも３場面前半と後半でクラスの児童全体の読みと支援の有効性において同様な傾向が見られた。そこで，以下では，３場面における読みを分析し，支援がどう機能していたかを考察する。

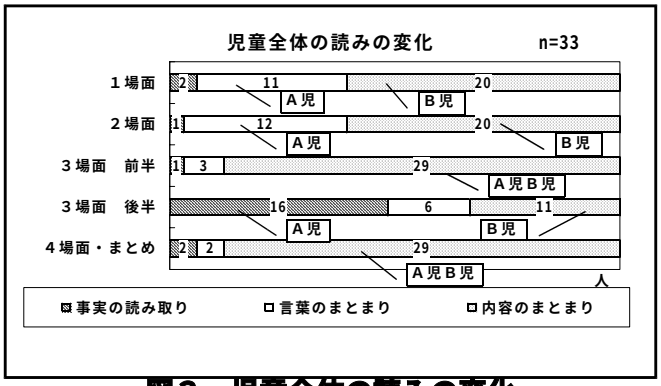


図３　児童全体の読みの変化

ア　３場面前半の読みと支援

		児童・教師の発言
		６グループの発表
	1	私たちの担当は木です。
	2	川の水が流れないようにすることです。
	3	大きな木で小枝が流れないようにするためです。
	4	小枝ばっかりだったら水に流されるからです。
	5	木のとがった部分を川の底に差し込むのをがんばります。
	6	木は小枝と違って重いから力いっぱいがんばる。
	7	ブロックみたいに強く差し込むことです。
		～～～
C	11	ほとんどの人がとがった方を差し込むっていうのに反対側にしているからちょっと気をつけた方がいいと思います。
T	5	見つけた人
C	12	手を挙げる（８名）
T	6	教科書にどう書いてあった？
C	13	木のとがった方を川のそこにさしこんでながれないよう。（一斉音読）
C	22	どろが先なんじゃないんですか？　（つまずき）
C	23	小枝が先です。
T	16	理由も言って教えてあげて。
C	24	その上に小枝を（自由発言）
C	25	木のとがった方のの次は小枝って書いてあるので小枝だと思います。

図４　３場面前半の発表と話し合いの様子

３場面前半の絵図作成では，素材に綿や画用紙を用い立体感を持たせた。手順としては，材料を分担した後，グループの話し合い（家族会議）で，担当の材料の役割，材料を使う順序，材料の使い方等を吟味させ，それらを発表原稿にまとめさせた。発表では，グループで話し合ったことを伝えてから一人ずつ作業を進めた。他のグループにはその作業が正確に行われているか教科書の文と見比べながら評価するように促した。図４，５は事実を確認しながら「想像」を広げている様子である。C 11 波線部分は，教科書の説明と見比べていたことが分かる。Ｔ６の問い掛けも加わってC 13 C 23 C 24 C 25 でも教科書に戻って読み取っている様子が見取れる。

		児童・教師の発言
C	54	小枝が落ちそうになっているから石でとめているからすごくといい。
T	23	今Ｎ君が言った「石でとめている」というのは教科書にどう書いてあった？
C	55	おもし（自由発言）
C	56	あのう，おもしにするって教科書には書いてあるけどこれは下のばっかりおもしをしていて，上の方が流れるんじゃないかなあと思います。
C	71	どろを小枝や木の上に重ねて固めたようにしているのがいいと思います。
C	A児	どろで石とか木をかためとるのがいいと思いました。
C	74	私たちよりいろんなところにはっているのでいいと思いました。

図５　３場面前半の話し合いの様子

Ｃ 54，56 は，仕事の様子の「想像」が広がっている。実際に具体物を使って作っていく過程が「想像」を広げることに働いていることが分かる。Ａ児やC 74 は，同じどろ担当のグループへ感想を述べている発言である。同じ材料を２グループに担当させることでさらに関心を持たせることができた。

以上のことから絵図作成が有効であることが確認できる。特に文章を読み取ることが難しい児童において有効性が大きかった。これは，

○　具体物を作っていくことで語句と語句，語句と文がつながりやすくなる。

○　絵画作成そのものが視覚的にも鮮明な「想像」を広げやすくする。

○　一人一人が読み取ったことをグループ内でさらに確かにすることで安心感が持てる。

○　全体の話し合いで再度文章を吟味することができる。

などの機能が働いたことによると考える。また，比較的容易に文章を読み取ることができる児童にとっても，グループ交流が教え合う場となり，より確かな読みへ高めることにつながった。

イ　３場面後半の読みと支援

３場面後半は１，２場面からの読みを関係付けて読む必要がある場面である。ここではダムが伸びて

いく様子を板書の図式化や揺さぶり発問によって読み取っていった。児童は，「少しずつのびて」「せき止める」などの語句に着目し，図式化された板書を参考にしながら「想像」を広げていった。図６Ｃ 91 ～ 93 は，黒板を使いながら説明しており，１場面からの仕事内容とも関連付けている。板書の図式化は，順序性や位置関係などの「想像」を広げる補助となっていることが分かる。

		児童・教師の発言
T	46	一方の川岸から反対側の川岸までできる知恵を見つけた家族は，発表してください。 ６グループ発言
C	91	これを（ダムの絵図）何回もあそこまで（黒板を使っている）反対側の川岸までこれを繰り返して，
C	92	木がなくなったら，森に行ってまたガリガリかじって倒して木をまた短くかみ切ります。
C	93	そして，その短くかみ切った木をまた湖に運んでまたダムをまたつくっていきます。
C	94	これもそうなんだけど，毎日家族でやっているのもそうなんじゃないですか。
C	95	私たちは，家族総出で力を合わせてしたからだと思います。わけは，休まずに続けてやっていると思います。

図６　３場面後半のダム完成についての話し合い１

		児童・教師の発言
T	50	０君がまとめてくれたけど，このダムつくるのにどれぐらいかなあ。一晩でできるのかなあ？
C	104	ぼくは，できると思います。わけは夕方から夜までというのが分かります。
C	B児	ぼくは，できないと思います。450m もあるのを夕方から夜中までだったらできないと思います。わけは，木を取りに行ったり，いろいろしていたら時間がかかるからです。
C	107	ぼくもできないと思います。こわれたらまたつくらないといけないので何ヶ月，何時間。何分もかかってしまうと思います。 ～～～
C	109	教科書に少しずつと書いてあるからそんなにはやくできないと思います。 ～～～
C	111	私はそれと反対で家族でやっているといいますから一晩でできると思います。 ～～～
C	116	ぼくは夕方から夜中までやっているからできると思います。 ～～～
C	118	やがてだから
T	56	やがてだからどっち？
C	119	なんかやっとって感じ～だから，かかる。 ～～～
C	126	反対側の川岸まで，反対側ってすごく陸橋（身近な例を出している）の方までずっとずっとのびているわけですから，だからすごく遠くで，一日では無理，後一週間ぐらいないといけないと思います。

図７　３場面後半のダム完成についての話し合い２

しかし，３場面後半は，事実の読み取りでとどまっている児童が半数を占める結果となっており，支援の有効性も分かれる結果となった。図７「一晩でできるのか」という話し合いは，中位群や上位群で活発であった。揺さぶり発問は，上位群では事実を確認したり，「想像」を広げたりすることに効果的であったが，下位群にとっては思考を停滞させるものとなった。また，中位群においても時間的な経過を「想像」することは難しかった。図７Ｃ 109「少しずつ」Ｃ 118「やがて」などの語句に着目しているもののＣ 111 Ｃ 116 Ｃ 126 に表れているように 450 m の長さや仕事量は実感できていない。

その原因としては，体験や経験の不足により文章内容との隔たりが大きかったこと，文章が抽象的表現で書かれていたこと，数量等が身近な認識を越えていたこと等が考えられる。低学年では時間的，空間的な把握は難しく，「想像」を広げる場合でも体験や経験したことが優先されるということが分かった。児童にとっては，夜中まで家族で協力すればできるという思いの方がより身近な認識であった。

ダムづくりのすごさを一層実感的に味わわせるためには，３場面の内容を具体化するための拠り所となる１場面２場面で，しっかり「想像」を広げて読んでおくことが必要であったと考える。

１，２場面では写真や挿し絵を「想像」の補助や手掛かりとしながら，様子を表す語句から「想像」を広げるような支援をしてきた。写真や挿し絵は，どの児童にとっても「想像」の補助や手掛かりとなったが「想像」を内容のまとまりへ広げることは難しかった。３場面前半において絵図作成が有効であったことから考えると，１，２場面でも体験や具体物を語句や文とつないでいく活動が必要だったと考える。図３のグラフから見ても，言葉のまとまりでとどまっている児童が多く，この点を改善する必要があることが確認できる。

１，２場面で上記のような学習活動がなされておれば，３場面後半でもダムづくりの大変さを実感できたと思われる。そのことが時間的経過の把握にも結び付いたのではないかと推察される。さらに，交流を活性化するためのワークシート等にも個に応じた細やかな支援が必要であることが見取れ，ここにも改善を要することが確認できた。

４　学習指導計画の再構成

(1) 改善の視点

授業実践と結果の分析・考察より，体験や経験を語句や文とつないで，「想像」を広げて読むことができるような支援や，読み取る力の差に応じたワー

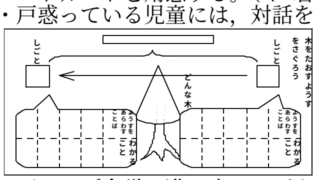
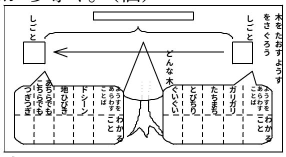
クシートの準備や手びきの必要性が課題として明らかになった。そこで，体験活動を語句や文とつなぐ支援や個に応じた支援を取り入れた授業の再構成を１場面を例に行う。

(2) 学習指導計画の再構成

改善点をもとに表５のように再構成する。

表５　学習指導計画の再構成（１場面の学習過程　第２時第３時連続）

ねらい　ビーバーが大きな木（高い，太い）を鋭い歯でかじって，たおすすごさを読み取る。

学　習　活　動	・教師の支援	「想像」を広げた読み
1　前時の学習を想起し，本時のめあてをつかむ。 ・　写真を見てビーバーがする仕事やすごいと思うことを交流する。	・かじられた木の写真を用意する。（イ　写真提示）	事　鋭い歯で木をかじって倒す
大工事のひみつをさぐろう１　木をあつめよう		
2　グループで木を持ってくるための話し合いをする。 ①　一人読みでかじって，たおす様子をワークシートに書きこむ。 ②　グループ会議で意見をまとめる。 ・どんな木・方法・何本くらい ・なんびきくらいで・どこらで 3　校庭に出てグループで木を探す。	・　項目のみ書いたワークシートと着目語句を書いたワークシートの２種類を用意し，選択できるようにする。（個） ・　着目語句から「想像」できることを選択肢から見つけられるようなヒントカードを用意する。（イ　着目語句の提示　オ　ワークシート・個） ・戸惑っている児童には，対話をしながら導く。（個）   ・グループ会議の進め方のてびきを用意する。 ・木の前で選んだ訳等を発表し，場面の様子を動作化することを知らせる。（ア　具体物・イ　体験）	言 ・かじる様子のすごさ ・大きな木が倒れる様子のすごさ 内・すごい速さで大きな木をあちらこちらで倒すすごさ
4　グループごとに発表する。 ・説明・仕事の様子の動作化・感想交流 5　グループごとに丸太を教室へ運ぶ。 6　学習のまとめをする。 ①音読　②今日の発見を書いて交流する。	・各グループが選んだ木に集合し，発表を聞く。 ・教科書と比べながら聞くように促す。 ・丸太を用意しておく。次時の学習への伏線。（イ　体験）	

事　事実の読み取り　言　言葉のまとまりを「想像」　場　内容のまとまりを「想像」
ア「想像」の補助　イ「想像」を広げる手掛かり　ウ「想像」したことの関係付け　エ「想像」の確認　オ事実の整理　　個　個に応じた支援

Ⅳ　成果と課題

1　成果

(1) 語句と語句，語句と文をつなぎ，言葉のまとまりを具体的に「想像」することを促す支援

○　文章から読み取ることの難しい児童には，写真や挿し絵等視覚から入る情報が手掛かりとなり，文章の意味理解を促進させることができた。

○　擬態語や擬音語に着目させる読みは，文章に抵抗がある児童にもなじみやすく，「想像」を広げるための手掛かりとなった。

(2) 文と文，場面と場面を関係付けて，場面の様子を具体的に「想像」することを促す支援

○　絵図作成は，どの児童にも有効性が見られた。読む必然性を持たせる活動を仕組むことで，語句や文に主体的にかかわらせたり，具体物を使った活動や視覚を通したりすることで，語句と語句，語句と文，文と文をつながりやすくし，鮮明な「想像」が広げやすくなった。

○　体験活動や話し合いを板書で図式化していくことは，順序性や位置関係の把握など「想像」を広げる補助となり，事実の読み取りや場面の関係付けに効果的であった。

2　課題

低学年では，体験や経験が不足しているため，言葉の読み取りだけでは「想像」を広げることが難しい。体験活動と文章をつなぐ授業づくりを大切にしなければならない。

また，読みに使用したワークシートにつまずく児童が見られた。読みの実態を事前に充分分析し，数種類のワークシートを用意したり，ヒントカードを用いたりする等，読みの力の実態に応じた配慮が必要である。　授業全般を通して，一人一人の学習状況を的確につかみ，個に応じた細やかな支援をしていくことが大切である。今後は，個に応じた授業の具現化のために授業力を高め，子どもたちに学ぶ楽しさを味わわせていきたい。

参考文献

①　大村彰道　秋田喜代美　久野雅樹『文章理解の心理学』北大路書房 2001

②　田近洵一『ことばの学び手を育てる国語科の授業』ぎょうせい 1990